



社会福祉
法人

一人ひとりに愛と希望を

九十九里ホーム

第 18 号

平成21年3月10日発行

ひとつぶの麦

社会福祉法人

九十九里ホーム

〒289-2147

千葉県匝瑳市飯倉21番地

TEL 0479-72-1131(代)

<http://www.99-home.com>



(聖マーガレットホーム 澤田 明江さん)

「土はひとりでに実を結ばせるのであり、まず莖、次に穂、そしてその穂には豊かな実ができる。」

— 新約聖書「マルコによる福音書 第4章」—

「早春」というテーマで聖マーガレットホームの澤田明江さんがスティックをくわえてパソコンで描いてくださいました。早春は草木が芽吹くときで、私たちに希望を与えてくれます。主イエスは、成長する種のたとえで神がこの世界にどう働きかけておられるかを示されました。種を蒔いた人は、あとは神の創造の秩序に委ねて収穫のときを待ち望みます。早春の芽吹きは私たちに収穫のときがあることを約束し、信頼しながら歩むように招いています。

日本聖公会八日市場聖三一教会牧師

九十九里ホーム・チャプレン 司祭 竹内一也

九十九里ホームの歩み<第四回>

高齢化社会に向けて、 老人福祉事業への取り組みを開始

第三回にて昭和30年代から40年代にかけ結核療養所から一般病院へと転換したこととその頃の状況をご紹介しましたが、第四回では、その後当法人が医療活動に加え、新たに老人福祉事業への取り組みを開始したことをご紹介します。

社会福祉法人としての特色を生かし、老人福祉事業を開始

当法人は、昭和40年代に整形外科と内科を中心とした一般病院へと転換しましたが、同じ頃自治体の資金援助を受けた近隣の公的病院は、次第に整備されていき、設備の整った総合病院としてその役割を高めていきました。当法人としては、公的援助のない民間病院としてそれらの病院と競合するのは無理もあり、社会福祉法人としての特色を生かす道を模索していました。ちょうど昭和40年代前半、同じ日本聖公会系列の群馬県の榛名荘病院で特別養護老人ホームを開設したことを知りました。長期的に見た場合、人口の高齢化が進んでいくのは確実でしたし、当法人で治療を終えて退院しても、在宅復帰が困難な方も多くいらっしゃいました。そういう状況を踏まえ、社会福祉法人としての特色を生かし、地域に貢献する新たな道として、老人福祉事業を開始することにいたしました。特別養護老人ホーム建設を計画し県当局に相談したところ、それは結構なことだということになり、昭和46年にオープン予定で準備に取りかかりました。ところが、第三回でもご紹介した過激な労働組合活動により、この計画も延期せざるを得ない状況となりました。

そして、上記の労働組合活動も次第に落ち着いてきた昭和51年度の理事会において、以下のような運営方針を決定しました。

- ①社会福祉法人としての性格を生かして地域社会への多角的貢献を図るために、病院を中核として複数の福祉施設の運営を考える。
- ②そのための第一段階として特別養護老人ホームの併設をする。
- ③病院の建物を、診療棟に次いで全て鉄筋コンクリート造りに建て替える。
- ④社会的に需要が高まっている「リハビリテーションセンター」を設置する。
- ⑤今後の長期的方針として、医療と関係の深い福祉施設を地域社会のニーズに見合って設置していく。

この方針は、当法人の歴史にとって極めて重要な決定で、今日の当法人の基盤をなしているとも言えるものでした。この方針に基づき、県当局の指導を得て、日本自転車



松丘園の奉献式
(祝辞を述べる元千葉県社会部長塚本宗吉氏、前列右端は高倉鎮雄元理事長、その隣りは大谷猛元専務理事)

振興会、千葉県、東総地区広域行政圏等からの補助金、共同募金の配分金及び当時の社会福祉事業振興会よりの融資が決まり、定員50名の特別養護老人ホームが建設され、昭和53年4月1日より特別養護老人ホーム「松丘園」として業務を開始しました。初代園長には、九十九里ホーム病院の総看護婦長であった市野カツ子さんが就任しました。翌年には50床の増床を行い、昭和55年4月より定員100名となり現在にいたっています。



リハビリテーションセンター完成時の九十九里ホーム病院

松丘園の運営が軌道に乗ったのを見定めて、先の方針に基づき、昭和56、57年度に一部を除き木造病棟を鉄筋コンクリート

造りに建て替えると共に、新たに「リハビリテーションセンター」を建設し、昭和58年8月1日付けにて千葉県知事より運動療法施設認可を受けました。当時、リハビリテーションの治療により機能が回復し、退院できる方が多くいらしたことが同センター設置の動機でした。工事完成後の新病棟の運営も順調に進み、一部残っていた40床分の病棟改築計画を実施し、当初の病棟改造計画は完了しました。

老人福祉事業の更なる充実

旧八日市場市では、それまで市が運営していた養護老人ホーム（所謂、天神山老人ホーム）が老朽化したため、市内下富谷地区に新たに土地を取得して新施設を建設することとなり、昭和59年度に建設に着手しました。同市では、新しい養護老人ホームの運営を当法人に委託することを考え、県当局の了解を得て、当法人に運営委託の申し入れを行いました。当法人としても、複合的な福祉施設の建設という方針にも合致するので、喜んでお受けすることとなりました。昭和60年4月1日、委託契約の成立と共に養護老人ホーム「瑞穂園」は、当法人の運営の下に定員50名で再出発しました。市当局より運営を委託されたのは、当法人がそれまで地道に地域の医療、福祉に貢献してきたことが認められたものと認識し、尚一層の努力をしていく決意を固めました。

昭和58年から開始したリハビリテーションセンターと新病棟の運営も順調に推移し、リハビリテーション治療を受ける患者の方も次第に増えていきました。同センターの設置の動機でも述べたように、適切なリハビリテーション治療が効果を発揮し、病院に入院されていた多くの患者の方の退院が可能となり、在宅へと復帰されました。リハビリテーションは継続することによって体の機能を維持できるのですが、退院後の通院リハビリテーションをお勧めしても治療を受けられない方も多く、その方たちは機能が逆戻りし、再入院を余儀なくされました。当時、既に核家族化の傾向にあり、家族と離れ一人暮らしだったり、同居していても家族の仕事の関係で、通院手段がないことが主な理由でした。当法人としては、せっかく機能回復し退院しても再入院する方が多いことに対して、何らかの対応をする必要があると考え、送迎付きのデイサービス事業を開始することにしました。昭和62年度に、松丘園に併設する形で九十九里ホームデイサービスセンターの建設を行い、翌昭和63年6月2日、旧八日市場市、旧光町、旧野栄町の受託事業としてデイサービス事業を開始しました。デイサービスは、レクリエーションの要素を取り入れた生活リハビリテーションですが、これが予想以上の効果があり次第に利

用者も増加していきました。同センターは松丘園に併設していましたが、それまで入所のみ
の施設であった松丘園は、在宅からも利用できる地域に開かれた施設へと更に機能を高めてい
きました。当初、デイサービス事業は定額委託で運営してありました。利用希望者を全て受け
入れていたため、採算的には相当厳しい面もありましたが、介護保険制度開始後は、安定的に
運営されるようになりました。

老人保健事業への展開と医療・福祉サービスの一体的提供体制の確立

松丘園は、デイサービスセンター
も併設され運営は順調に進みまし
たが、益々入所を希望される方が
増加し、多くの方に入所まで待機
していただかねばならない状況に
なっていました。また、病院での
リハビリテーションを終了して
も、在宅復帰できるまでに体力が
回復されるまでには、いまさら
く療養が必要な方や、松丘園への
入所までに時間を要する方が多く
いらっしゃいました。当法人とし
ては、このような方々を一時的に
受け入れる施設がないものか検討



完成直後のミス・ヘンテ記念ケアセンター

を始めましたが、老人保健法に基づく老人保健施設がこれに合致するものと判断し、この施設
の建設を計画しました。同施設は、医療と福祉の中間的な機能を有するものとして構想され、
医療・福祉サービスの一体的提供という当法人の理念にも一致していました。平成元年度に、
九十九里ホーム病院と松丘園の間の敷地に、80床の老人保健施設を建設し、翌平成2年度に運
営を開始しました。施設名は、当法人の創立者であるA.M.ヘンテ女史の功績を後世に残そうと
の思いから、ミス・ヘンテ記念ケアセンターとしました。初代所長には、郡南病院の院長を務
めた関秀一先生が就任しました。

ここにおいて、リハビリ機
能を備えた病院、老人保健施
設、在宅サービスを兼ね備え
た特別養護老人ホームが、同
一敷地内で医療・福祉サー
ビスを一体的に提供するという
当法人の念願としていた体制
が確立しました。上記三施設
は緊密に連携し、利用者の方
のニーズに応じた医療・福祉
サービスの提供が可能となり
ました。この体制は千葉県で
も初の体制であり、全国的
にも注目されることになりま
した。



病院、老健、特養が整った当法人本部全景

レポート

「日向の里」で 季節を感じる生活！

「老人保健施設 日向の里」が当法人の一員として新たにスタートしてから1年が経とうとしています。

当施設は、緑に囲まれた閑静な周辺環境という素晴らしい立地にあります。居室の窓からのどかな里山の風景が広がり、四季の移り変わりも見ることできます。天気の良い日は利用者の方は外気浴を楽しんでいます。

入所しているとどうしても施設の屋内生活になり、季節の移り変わりにも疎くなってしまいがちです。職員が工夫して利用者の皆様に「季節を感じていただける行事」を毎月積極的に実施しています。更に入所者と職員の共同制作で施設内の掲示板に「季節の飾り付け」をすることで、より季節感を感じてもらえるよう職員も努力しています。

施設に隣接した旧家を陶芸小屋に改装し、リハビリの一環として「陶芸」が盛んに行われており、利用者に大変喜ばれています。作品は良くできたものから独創的なものまであり、施設の1階ロビーに展示してあり好評です。

近年は利用者のニーズも多様化しており、当施設では個々の利用者の要望に可能な限り応えられるようにしております。今後とも、地域の方々に選んでいただける施設であるように日々努力して参ります。

〈施設の概要〉

定 員 入所80名 通所40名

提供サービス

- ①入所
- ②短期入所（ショートステイ）
- ③通所リハビリテーション（デイケア）
（サービス提供地域：山武市、八街市、東金市 ※一部を除く）
（営業日：月～土曜日 ※日曜日、年末年始は休み）
（サービス提供時間：9：00～17：00のうち6時間以上8時間未満）
※詳しいサービス内容は下記までお問い合わせ下さい。

ご連絡先

- 住所 〒289-1212 千葉県山武市木原2100番地
- TEL 0475-88-1980（代表）
- FAX 0475-88-3223
- E-mail hyuuganosato@tkcnet.ne.jp



施設前の田園風景



陶芸の制作風景



陶芸作品の展示

第18回法人内研究発表会開催

～一年間の取り組みの成果を発表～

法人内各施設の情報交換と職員の教育の場として開催されている研究発表会も18回を迎えました。参加人数は昨年より12名多い244名でした。

今回の発表で特に注目されたのが、最優秀賞の障害者支援施設聖マーガレットホームで取り組んだ日中活動支援でした。利用者の仕事に対する意識調査を行い、日中活動を検討し興味や能力に応じた作業を行いました。その結果、活動に参加し楽しみが増え充実していると答えた方もいましたが、中には仕事があって大変、自分の出来ることがない等の意見も聞かれました。日中活動を通しての社会参加ができ、生活に充実感が持てるとの意見が聞かれたことを大切に、より多くの方の生き甲斐を見つけてほしいと感じました。

優秀賞は九十九里ホーム病院とミス・ヘンテ記念ケアセンターでした。九十九里ホーム病院では、幅広い年齢層の患者さんに対してのサービスのあり方を看護師・看護助手・患者様・ご家族等にアンケートを実施し、まとめた内容でした。患者さんからの看護師に対する見方、業務に対する要望が見えてきました。「看護師・看護助手の対応に対し満足している」との回答が多いものの「いいえ」の回答がゼロではない結果でした。また、「コールを押してから対応までの時間が長い」「入院生活に改善・要望がある」との回答も数名いました。スタッフの業務に対する意見では、「ニーズを把握していない」「業務中心になっている」等の回答も中にはありました。アンケートを通し、日々の業務に追われ、業務を終えていくことで満足し、その奥にある患者様のニーズを十分には把握しきれていない面も見えました。職員一人一人が意識を持ち、患者さん中心とした看護を実践していくことが必要だと思います。これらのことは、全職員に共通する内容だと考えさせられる発表でした。

ミス・ヘンテ記念ケアセンターは、利用者と家族が共に在宅での生活を希望されている方を対象に在宅復帰の援助を行った内容と経過の発表でした。入所時のADL（日常生活動作）を測り、在宅生活ができるようリハビリを行い経過を観察しました。リハビリの内容は、歩行訓練・排泄訓練・着替えの訓練でした。2ヶ月毎に評価をし、半年後には、在宅へ戻れる程ADLが向上し介助量も減少しました。そして、相談員・ケアマネージャー・リハスタッフで退所前訪問を行い、住環境を整備し在宅復帰をすることができました。施設へ入所する利用者には、家族構成や住宅環境など様々な要因が重なり、在宅復帰ができないケースが多くありますが、多職種による連携と利用者・家族の思いが在宅復帰に繋がった研究発表でした。

今後も、各施設のサービスの向上を図る為、職員の勉強の場として研究発表会を実施していく予定です。毎年、各施設の発表を聞き意識を高め、より良いサービスの提供を目指したいと思います。



最優秀賞を受賞した聖マーガレットホームの研究発表

法人内研修会のご紹介

当法人には法人内研修会として、「新人職員研修」「交通安全研修」「リハビリテーション研修会」「医療安全管理研修会」「感染対策研修会」「褥瘡対策研修会」「法人内研究発表会」等があります。

その中で、平成20年度第1回感染対策研修会「迫り来る新型インフルエンザ！大流行の恐怖 ～あわてず、騒がず、正しく理解～」が、平成20年12月10日に開催されました。

法人内感染対策委員長の林文医師、九十九里ホーム病院感染対策委員の佐谷久美子医療相談員を講師として、法人内各施設から250名が参加して行われました。内容としては、1. 新型インフルエンザって何？ 2. 最新情報 3. 病院・介護施設での感染対策 4. 家庭での感染対策、についてスライドを使用し、「新型インフルエンザというのは、従来は人に感染することがなかった鳥インフルエンザウイルス等が、人

の体内で増えることができるように変化し、人から人への強力な感染力をもつようになったもの。」等の基本的な定義や対策等について、一般職員にもわかりやすく説明されました。新型インフルエンザについては、現在話題になっている中、まだ十分な情報がないため、参加者は興味深く聞くことができました。

当法人では、各施設での研修に加え、法人全体での研修を積極的に実施しています。



平成20年度第1回感染対策研修会

地域住民の方と合同防災訓練を実施

養護老人ホーム瑞穂園

平成20年11月25日、養護老人ホーム瑞穂園において、匝瑳市下富谷地区住民の方と合同で防災訓練を行いました。大勢の地域の方にご参加いただき、入所者の避難誘導の介助や消防署の指導のもと、消火訓練、放水訓練を



消防署の指導のもと、消火訓練を行う地域住民の方

行いました。入所者の方も高齢で介助の必要な方が多くなっているため、避難には時間がかかりましたが、地区住民の方の介助によりスムーズに移動することができました。消火訓練では、「火事だ！」とまず大きな声を出すことを、地域の方・職員共に消防署の方に教えていただきました。参加された方からは、「普段、消火器を使うこともないので使い方等、自分達の訓練にもなりました」との感想がありました。また、防災倉庫や防災釜について、施設側から地域の方々に貢献できることがないか、意見交換をいたしました。そして、地域の中の施設として、地区住民の方々の支えにより、安全で安心した生活を送れることを実感いたしました。

よかっぺ祭り、大盛況！

空の青さがまぶしいほどに晴れ渡った昨年10月19日、匝瑳市民祭りである第30回よかっぺ祭りが、市内本町通りを中心として盛大に開催されました。

当法人は、匝瑳市実行委員会の一員として健康広場を企画運営させていただくことになり、当日は血管年齢測定、体脂肪測定、介護リフト車の体験搭乗、管理栄養士による栄養相談や千葉県放射線技師会の協力による骨密度測定などの多彩な企画を実施し、400名を超える方が来場してくださいました。

また、今回初めて、給食課特製のヘルシー牛丼を100食分用意して販売したところ、あっという間に完売してしまい、スタッフの昼食にまで回らないといううれしい誤算もあり、市民の健康への関心の高さを改めて強く感じ

ました。

これからも九十九里ホームらしさを生かした企画で地域交流に参加してまいります。



当法人のブースには多くの方が訪れました

バレーボール同好会が見事初優勝！

昨年11月30日と12月14日に行われた、第3回千葉県医業健康保険組合被保険者バレーボール大会に参加した九十九里ホームバレーボール同好会がついに優勝しました。前回は2回戦で惜敗しましたが、今回はベストメンバーで望み、9名全員の力で頑張り、苦戦をしながらも勝ち上がりました。決勝戦は今まで2連覇をしている玄々堂病院との対戦でした。さすが簡単には勝たせてくれません。しかし、選手とベンチが一体となって声を掛け合い、フルセットの熱戦の末、2対1で勝利し優勝することができました。次の大会に向けて練

習を重ねていきたいと思いますので、これからも温かい応援をよろしくお願いします。



献血に協力しています

日本赤十字社千葉県赤十字血液センターより、本年1月6日(火)に献血車が当法人に来所されました。採血は松丘園の前で行われ、採血数は15名の協力者数で、400ml献血者は10名と、仕事の合間をぬって献血に協力させていただきました。血液不足が深刻とのこと。今後も協力をしていきたいと思ひます。



松丘園の前で献血を行いました

法人職員、募金活動へ協力

当法人では、“神を信じ人を愛する心・一人ひとりに愛と希望を”の基本理念に基づき、募金活動へ積極的な協力を行っています。毎年恒例のものからその時々に応じたものまであり、毎年のもものでは、千葉県共同募金会で行われる「赤い羽根共同募金」と「NHK歳末たすけあい義援金」があります。また、随

時のものとしては、「ピースボート地雷廃絶募金」などがあり、全職員への募金協力を呼びかけています。

昨年の実績は、「赤い羽根 518,500円」「NHK歳末 173,626円」「地雷撲滅 59,541円」「M君心臓移植 314,138円」となっています。

助成事業の報告

日本船舶振興会(日本財団)より送迎車の寄贈 九十九里ホームデイサービスセンター



この度、日本船舶振興会より、送迎車（日産：セレナ）をいただきました。車高が低く、ステップや手すりが付いており、乗り降りしやすいと好評です。

安全運転を心掛け、利用者様の送迎に活用させていただきます。

千葉興業銀行 「ともしびの会」様より寄贈

聖マーガレットホーム

千葉興業銀行の「ともしびの会」様より現金10万円を寄贈していただきました。施設のために有効に使わせていただきたいと思います。ありがとうございました。



家族の会より プラズマテレビの寄贈

特別養護老人ホーム松丘園

松丘園・家族の会「まつぼっくり」より、平成20年11月に65型という大型ハイビジョンプラズマテレビを寄贈していただきました。松丘園の1階食堂に設置し使用させていただいております。皆さんが癒される空間を作る為、大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



銚子法人会様より オーディオセットの寄贈

九十九里ホームデイサービスセンター

銚子市・匝瑳市・旭市の会社関係が加入している銚子法人会（今回は匝瑳支部が中心）の社会貢献活動の一環として、九十九里ホームデイサービスセンターへ来所され、ダンスと歌を披露していただきました。また、併せてオーディオセットを寄贈していただきました。



テックエンジニアリング株式会社様 及び同社社員会様より寄贈

養護老人ホーム瑞穂園

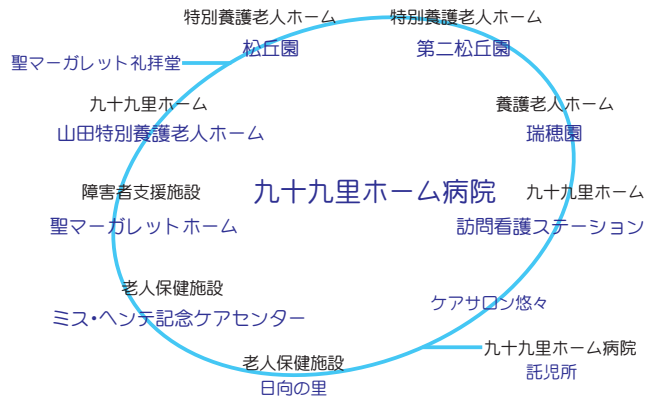
テックエンジニアリング株式会社様及び同社社員会様より、千葉県共同募金会を通じて寄贈のお申し出があり、フットマッサージ機を購入させていただきました。ありがとうございました。





法人本部全景

九十九里ホームネットワーク



— 新CT装置導入のお知らせ 九十九里ホーム病院放射線室 —

このたび当院放射線室ではCT装置の更新に伴い、新たに日立メディコ社製16列マルチスライスCT装置を導入いたしました。

これは、高容量のX線管と16列の検出器がらせん状に連続回転して検査を行うため、従来の装置に比べX線による被ばくの低減や検査時間の短縮、そして一番重要な検査データの収集力が格段に優れている高度医療機器です。そしてそのデータを元に任意の部位における3D立体画像やMPR特殊断層画像を作成することができ、身体の内臓脂肪を色分けで表示することによりメタボリック症候群の検査も行えます。

また、今回放射線室と各診療科を14台のモニターでつなぎ、一般撮影とCT撮影の結果を従来のフィルムに代わりモニター上で表示できる診断システムを構築し、試行を開始致しました。放射線室では今後ともより以上に、検査を受けられる方の身体的な負担を軽減できるよう努力してまいります。尚、検査についてのご不明な点や被ばくに関するご相談などございましたらご遠慮なくスタッフまでお申し出ください。

当法人のホームページをリニューアル

本年3月より当法人のホームページをリニューアルします。新しいホームページの特徴は、トップページに事業所別とサービス別に分けて表示し検索しやすくしたり、中のページから必要なページへリンクできるようにするなど、情報をさがしやすくしたことです。また、最新のトピックスをトップページに掲載し、常に当法人に関する新しい情報を見ていただけるようにしました。当法人への入職を検討されている方のためには、先輩職員の声や各種福利厚生の内容を充実させました。是非、新しいホームページにアクセスしてみてください。尚、アドレスは変更ありません。

新ホームページのアドレス：<http://www.99-home.com>

＜お詫びと訂正＞

ひとつぶの麦17号の表紙に「旧約聖書 マルコによる福音書第4章」と記載いたしましたが、「新約聖書 マルコによる福音書第4章」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。